

恥ずかしながら

田村整形外科 院長

田村 功 (昭和60年入局)

この度は私の拙い漫画を掲載していただき誠に有難うございます。会報編集に携わる先生方の寛容の精神に感謝します。

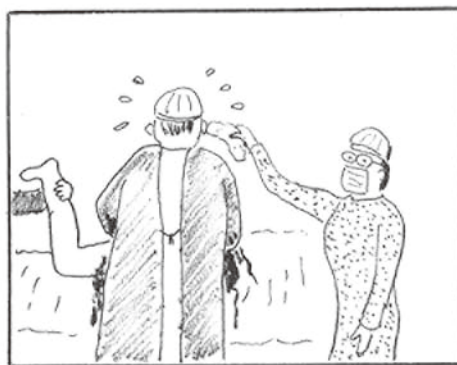
私は本学麻醉科に三年間在籍した後、整形外科に移り、現在は神戸で開業しています。麻醉科三年目の時に当直日誌の後ろの方のページに「麻醉科のフリチン君」というタイトルで四コマ漫画を描き始めました。医局員やローテーターの中には面白がってくれる先生もおられました。中でも兵頭教授はナンセンスギャグがお好きで喜んで下さいましたので、この漫画は「近畿麻醉医界」という新聞に掲載されました。

麻醉科も残すところあと一カ月ぐらいの頃、兵頭教授と廊下ですれ違いざま呼び止められました。何か小言でも言われるのかと思いましたが、教授は「麻醉科にいる間に出来るだけ沢山漫画を残して置いて下さい」とおっしゃいました。これにはこげそうになりました。

それ以後は、関連病院で少し描いたり、梅池スキー診療所の日誌に描き残したりしましたが、そのあとは長く漫画とは遠ざかっていました。

ところが二年前ひょんな事から月刊の「神戸市医師会報」に漫画を描かせてもらえることになり、平成21年7月号から22年12月号まで月二つペースで連載していただきました。古いネタも入れましたが、出来るだけ新ネタでいきました。「奥さん」というキャラクターも創りました。同門会誌に載せていただくのは「神戸市医師会報」プラスαです。四コマ漫画は四コマ目の落ちさえ浮かべば一から三コマは起承転になるように無理にでもこじつければいいのです。以前は日常の中で割とネタが浮かんできま

計測



したが、今は時間を取って真剣に考えないとなかなかアイデアが出てくれません。「ことわざ」や「勧誘電話撃退法」を見られた時、「これはどこかで見たような」と思われる先生がいらっしゃるかもしれません。それは二十年程前「雑誌・整形外科」の「診療

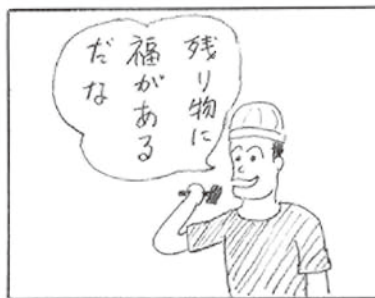
余卓」に掲載してもらった文章を焼き直したのだからです。

格調高い同門会誌に相応しくない内容の漫画で申し訳ありません。

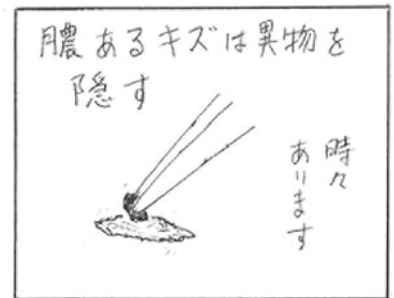
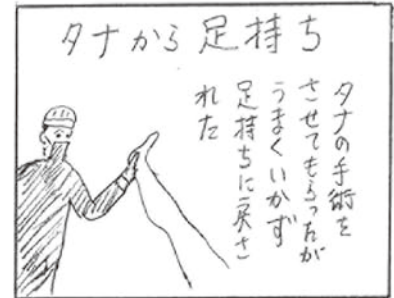
数



残り物



ことわざ1



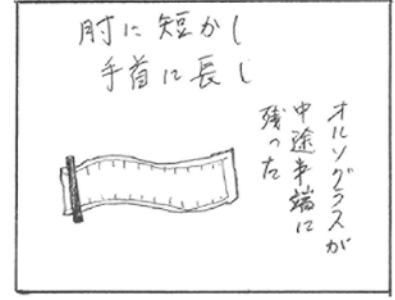
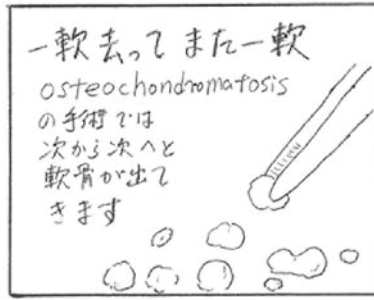
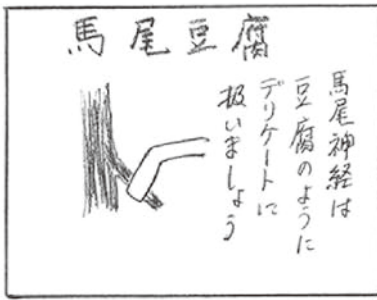
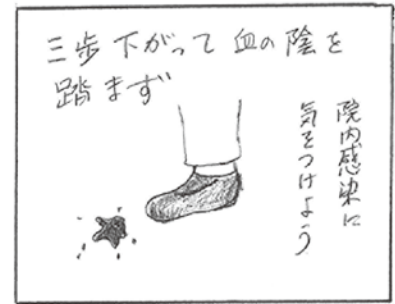
ことわざ2



ことわざ3



ことわざ4



骨膜

勧誘電話撃退法 (8コマ)

